

山形県内の鉄道年表（陸羽東線）

令和7年11月現在

年	月日	事項
明治43 (1910)	3.14	鉄道敷設法（明治25年6月21日法律第4号）第7条が改訂され、鉄道敷設法改正法律（明治43年3月14日法律第22号）として公布される。これにより新庄線（古川～新庄～酒田）第1期線に編入される。 (現在の陸羽西線を酒田線、陸羽東線を陸羽線、全部を通して新庄線と呼称)
大正4 (1915)	11.1	新庄線中陸羽線 <u>新庄～瀬見間開通</u> （大正元年5月着工、 <u>長沢、瀬見の各駅開設</u> ）
大正5 (1916)	8.1	〃 <u>瀬見～羽前向町間開通</u> （大正元年5月着工、 <u>羽前向町駅開設</u> ）
大正6 (1917)	11.1	〃 <u>鳴子～羽前向町間開通</u> （大正元年5月着工、 <u>羽前赤倉、境田各駅開設</u> 、陸羽線として全線開通）
大正13 (1924)	7.31	<u>線名を陸羽東線と改称</u>
昭和24 (1949)	2.1	<u>大堀駅開設</u> （停留所）
昭和34 (1959)	7.10	<u>立小路、東長沢の各駅開設</u> （停留所）
	12.1	仙台～秋田間（陸羽東線経由）臨時準急「たざわ」運行開始（1往復：昭和35年3月1日定期化、後に仙台～秋田～青森間1往復増発、「千秋」と改称、昭和57年11月15日廃止） 仙台～酒田間（陸羽東線経由）臨時準急「もがみ」運行開始（1往復、米沢発「もがみ」と陸羽西線併結：昭和35年3月1日定期化、陸羽東線内「たざわ」と併結運転、後に羽後本荘～仙台間1往復増発）
昭和35 (1960)	12.20	<u>南新庄駅開設</u> （停留所）
昭和37 (1962)	12.10	羽前赤倉、瀬見、長沢の各駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）
昭和40 (1965)	9.1	<u>鶴杉駅開設</u> （停留所）
昭和42 (1967)	12.12	連鎖閉塞（トークンレス）化
昭和49 (1974)	8.1	集中豪雨のため不通（昭和49年8月7日開通）
昭和55 (1980)	8.1	羽前向町駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）
昭和58 (1983)	3.7	CTC化 羽前赤倉、瀬見の各駅が簡易委託駅化、境田、長沢の各駅が停留所化
	4.1	羽前向町駅が業務委託駅化
昭和59 (1984)	2.1	荷物営業廃止線区となる

山形県内の鉄道年表（陸羽東線）

令和7年11月現在

年	月日	事項
昭和61 (1986)	11.1	仙台（米沢）～酒田・羽後本荘間急行「もがみ」2往復廃止 (仙台～庄内間直通急行はゼロとなる。)
昭和62 (1987)	2.18	大堀駅舎改築
昭和63 (1988)	3.13	新庄～小牛田間に快速「いでゆ」上り3本、下り2本新設
平成2 (1990)	3.10	快速「いでゆ」上り1本が仙台まで直通運転化
平成7 (1995)	10.14～15	仙台～酒田間を直通する臨時快速列車「ホリデー最上川舟下り号」が運行され、仙台都市圏からの利用拡大策を積極的に展開する。（以後、春、秋季にそれぞれ2日間運行される）
平成11 (1999)	3.12	山形新幹線新庄延伸工事に伴うバス代行輸送の補完対策として新庄～古川間の臨時列車1往復運転
平成12 (2000)	12.2 12.4	快速「湯けむり」の新庄～小牛田間直通運転化 新庄～鳴子温泉間1往復の運転とりやめ <u>「奥の細道湯けむりライン」を愛称として使用開始。</u> 新幹線との接続を考慮するダイヤ編成。利便性向上のために新庄～鳴子温泉間1往復 新型気動車8両投入し、新庄～鳴子温泉間で平均到達時分を1時間01分とし、9分短縮 快速列車の愛称名を「いでゆ」から「湯けむり」に変更 最上～鳴子温泉間往復増発 <u>羽前向町駅を「最上駅」、羽前赤倉駅を「赤倉温泉駅」、瀬見駅を「瀬見温泉駅」に改称</u>
平成15 (2003)	11.10	線路のリフレッシュ工事（鳴子温泉～最上駅間）
平成16 (2004)	3.13 10.16	新庄駅→鳴子温泉駅での接続列車改善（1本） 新庄発快速列車を普通列車化（1本）：「湯けむり号」廃止となる
平成20 (2008)	10.1	ジョイフルトレイン「みのり」デビュー（仙台・小牛田～新庄間） 「リゾートみのり」運行開始
平成29 (2017)	11.1	<u>全線開通100周年</u>
令和2 (2020)	6.28 7.23	リゾートみのり運行終了 快速湯けむり号運転開始（仙台～新庄間）
令和6 (2024)	7.25 8.23	<u>集中豪雨により新庄～鳴子温泉間不通</u> 新庄～鳴子温泉間代行バス運行開始
令和7 (2025)	9.	JR東日本が新庄～鳴子温泉間の本格的な復旧工事に着手